

令和6年度 学校評価(自己評価及び学校関係者評価)

旭市立飯岡小学校

學校運營協議會委員

香取	弘之	樣
磯野	美智子	樣
渡辺	領子	樣
神原	正見	樣
佐久間	和人	樣
加瀬	正彦	樣
常世	田敏彦	樣
片桐	美行	樣

1 学校教育目標

「確かな学力、豊かな心、健やかな体を備えた児童の育成」

2 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

学校による自己評価の評価基準：A(満足できる:肯定的評価90%以上)、B(ほぼ満足できる:肯定的評価70～89%)

C(やや努力が必要である:肯定的評価50~69%)、D(努力が必要である:49%以下)

学校関係者評価の評価基準：A(適切な評価である)、B(ほぼ適切な評価である)、C(やや不適切な評価である)、D(不適切な評価である)

分野・領域		評価項目	評価の指標(%)		自己評価	考察と改善に向けた取組	学校関係者評価			
			R6	R5			自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ		
学校運営 教育課程	保:	お子さんは毎日楽しく学校に行っている。	92.2	94.8	A	児童アンケートでは、「毎日楽しく学校に行っていますか」の回答では、肯定的回答94.3%と、保護者の回答92.2%と共に高い回答値を得られ、概ね目標は達成できました。 特色ある教育課程の実践では、保護者・教職員に新たな質問で「学校は、楽しく意義のある行事や体験学習を実施している。」を設定し、保護者の肯定的評価95.1%、教職員も100%と自校の取組への自信につながり、学校生活が充実している様子がうかがえました。特に防災教育では、外部人材活用で充実したプログラムを組み、高台避難訓練などは、本校の特色ある活動に位置づけています。同様に、読書活動は、通年で校内読書賞の全員授与率は目標とした80%を超え(R5:64.8%)、学校での読書の機会を増やすことが出来ました。そして、ふるさと教育とキャリア教育の推進を重点的取組として位置づけ、地域や企業の自然、人材など教育資源を活用した出前授業や体験学習を通して、本物に触れたこと、とりわけ5年ぶりに飯岡小自慢の象徴である海洋体験学習を復活させたことにより、ふるさとの良さを感じるとともに海に関わる職業観を広げることができました。また、7月にはPTA役員の皆さんによる「チャレンジスポーツ体験」を今年も実施することができ、こうした行事等の復活や特色ある教育活動の実現が肯定的評価につながっていると思われます。 学校運営協議会や地域学校協働活動は、市モデル校指定の実績を生かし、今年度は社会福祉協議会との連携を強め、新たな地域交流活動や外部人材活用と人的・物的資源のネットワークが広がりました。	A	A		
	児:	あなたは、毎日楽しく学校に行っていますか。	94.3	92.8	A					
	職:	児童は毎日楽しく登校している。	100	100	A					
	保:	学校は、楽しく意義のある行事や体験学習を実施している。	95.1	/	A					
	職:	学校は、楽しく意義のある行事や体験学習を実施している。	100	/	A					
	保:	学校は、保護者や地域(令和5年度より学校運営協議会を設置)の意見を参考にし、学校運営や教育活動を行っている。	96.1	92.2	A					
	職:	学校は、保護者や地域(令和5年度より学校運営協議会を設置)の意見を参考にし、学校運営や教育活動を行っている。	100	100	A					
	保:	学校の教職員は、「働き方改革(業務改善や教育活動の見直し、ICTによる校務効率化など)」を行うなどして時間を作り、子どもと向き合う時間(学習や生活面でのサポートやコミュニケーション、保護者との情報共有など)の確保に努めている。	87.4	/	B					
学校関係者による 意見等	・特色ある行事や地域の人材を活用した活動など、児童が楽しく学べるように改革が図られている。									
学習指導 家庭学習	保:	お子さんは、授業が「楽しい、またはおもしろい」と言っている。	81.6	84.4	B	・児童の「先生の授業は楽しくてわかりやすいですか」は肯定回答96.9%(昨年度比+11.3)と大幅に向上しました。昨年度から職員の授業力を向上させるために力を入れてきており、職員研修、校内研究授業等の結果、研究主題の「学ぶ楽しさおもしろさを幹事ながら主体的に伝え合う児童の育成」を目指した成果が見え始めています。授業における教師のタブレットの活用率も週3日以上で職員の80%となり、ICT活用に取り組んでいます。保護者回答は、肯定的評価が昨年度と同様に、目標値90!には81.6%(-2.8)と及ばなかった点、そして「授業がわかった、できた」と言う実感を持っている」で80%に達していない点は、親子で認識の違いが大きいことが課題として残っています。保護者や児童の評価との隔たりについては謙虚に受け止め、今後も授業力向上の研修に努めてまいりたいと思います。 宿題や自主学習等、家庭学習の習慣化と読書時間については、少しの上昇はあるものの昨年度に引き続き、本校の課題となっております。今年度は、全校読書を週2日と増やし、読み聞かせの時間を確保し、学校司書と連携してより一層の読書活動を推進してきました。「読書の楽しみ」をさらに広げ、読解力向上につなげるように引き続き、課題となる家庭読書とも連動させていきます。そして、家庭学習の進め方を学校から具体的に提示しているものの、これについても75%を次年度は超えていけるよう、各学年の担任と向上策を考えていきたいと思います。	A	B		
	職:	児童は、授業が「楽しい、またはおもしろい」と言っている。	92.3	92.9	A					
	保:	お子さんは、授業が「わかった、できた」と言う実感を持っている。	77.7	84.4	B					
	職:	児童は、授業が「わかった、できた」と言う実感を持っている。	100	92.9	A					
	児:	先生の授業は楽しくて分かりやすいですか。	96.9	85.6	A					
	保:	宿題が終わったかを確認したり、学校で学習したテストやプリント等を見たりして、お子さんの学習状況を把握している。	84.5	80.8	B					
	職:	保護者は宿題が終わったかを確認したり、学校で学習したテストやプリント等を見たりして、児童の学習状況を把握している。	92.3	100	A					
	保:	お子さんは、宿題や自主学習等、決まった時間に家庭学習に取り組む姿が見られる。	63.1	62	C					
	児:	あなたは、宿題や自主学習など決まった時間に取り組んでいますか。	69.2	65.3	C					
	職:	児童は、宿題や自主学習等、決まった時間に家庭学習に取り組んでいる。	76.9	57.1	B					
学校関係者による 意見等	・あなたは、学校や自宅で本を読んでいますか。					59.7	57.5	C		
学校関係者による 意見等	・ICTの活用を推進していくことはとてもよいが、ポイントを絞って効果的な場面に活用することが大切だと考える。タブレット等を何回使ったかに重きを置いてしまうと学力向上にはつながらないと思う。 ・保護者の求める学習の到達度と学校との隔りもあると思う。評価に一喜一憂せず、取り組んでいければよいのではないかな。 ・学習に対する保護者と教員の認識が異なるが、その差を少なくする地道な取組が必要だと思う。 ・家庭読書会のような工夫はできないか？									
生徒指導	保:	お子さんは、分からないことや困っていることについて、先生に相談しやすい、話しやすいと言っている。	73.8	85.7	B	職員は児童のSOS!に気付き、児童の心情に寄り添った相談体制を構築できるように努めているところです。そんな中、課題であった「先生は、分からないことや困っていることがあるとき、相談しやすい、話しやすいですか。」が向上きに82.4%となり、相談体制が児童にも認知、浸透してきています。教職員一人一人が児童や保護者の声に耳を傾け、丁寧に指導をするようにしてはいますが、子どもの立場では、まだ困ったときには担任等に話すようにしている割合が他に比べて少ない点は、引き続き、ふだんから教育相談を充実させ、その機会を随時持つようにし、話しやすい人間関係作りを努めていきたいと思います。そのためにも、学校の働き方改革により、担任が子どもと向き合う時間を増やすように進めているところです。そして、担任と学校サポートーや教諭補助員、スクールカウンセラー等、児童と関わるすべての教職員が児童についての気付きを共有し、対応できるようチーム飯岡小で努めていきます。 また、児童回答の「先生は、あなたのよいところは認め、ほめてくれますか。」は95.6%と大幅に肯定的評価が高くなった点は、教職員が共通歩調で、児童が自分の役割に責任をもって果たしたり、仲間と協力して進めたりする姿を賞賛しながら、自発的、自治的活動を通して、自己肯定感を高める指導に努めているためと推察できます。	A	A		
	児:	先生は、分からないことや困っていることがあるとき、相談しやすい、話しやすいですか。	82.4	76	B					
	職:	児童は、わからないことや困っていることについて、先生に相談しやすい、話しやすいと言っている。	100	100	A					
	保:	学校は、お子さんのよいところは認め、伸ばし、正すべき行動に対しては真剣に対応している。	92.2	94.8	A					
	児:	先生は、あなたのよいところは認め、ほめてくれますか。	95.6	86.2	A					
	職:	学校は、児童のよいところは認め、伸ばし、正すべき行動に対しては真剣に対応している。	100	100	A					
	保:	お子さんと学校の様子や出来事などについてよく話している。	87.4	88.3	B					
	職:	保護者は児童と学校の様子や出来事などについてよく話している。	92.3	100	A					
	保:	お子さんの様子が、いつもと違うときは、学校と連絡をとるようにしている。	75.7	71.4	B					
	職:	保護者は児童の様子が、いつもと違うときは、学校と連絡をとるようにしている。	100	100	A					
学校関係者による 意見等	・プライバシー保護の問題もあり難しいかもしれないが、各家庭状況の詳細を把握し、指導の一助にできないか。 ・働き方改革を推進し、先生方にゆとりができるようになれば、子どもの声をじっくり聞けると思います。									
道徳 特別支援教育	保:	学校は、お子さんの個性や良さ・学習のつまずきを的確に把握し、適切な指導・支援をしている。	91.3	84.4	A	「学校は、お子さんの個性や良さ・学習のつまずきを的確に把握し、適切な指導・支援をしている。」の保護者回答は、肯定的評価が90%を超えることが出来ました。特別支援教育にも通じる本校の一人一人に合った指導・支援について、保護者の理解が進んできたと考えます。引き続き、児童の個性や良さ・学習のつまずきをしっかりと見極められるよう、職員一同、児童と関わる時間を今以上に確保していきます。そのためにも、学校の働き方改革により、担任が子どもと向き合う時間を増やすように進めている点の理解促進も周知していきます。 年度当初から学校経営方針で打ち出してきた「笑顔の登校、笑顔で挨拶」の励行を積極的に推進してきたことで、全学年の学級指導で校舎内外での挨拶の励行や計画委員が主体となった挨拶運動が行われました。挨拶や言葉遣いについては、職員自らが模範を示し、すべての教育活動を通して、気持ちのよい挨拶と返事、丁寧な言葉遣いを今後とも指導していきます。海岸清掃、社会福祉協議会との連携などを行い、地域と関わりながら、社会福祉活動やボランティア精神、奉仕的活動にすすんで取り組める心を育む道徳的教育活動をさらに展開していきたいと考えます。	A	A		
	職:	学校は児童の個性や良さ・学習のつまずきを的確に把握し、適切な指導・支援をしている。	100	100	A					
	保:	お子さんは、挨拶やあたたかい言葉遣いなどが身に付いている。	90.3	87.2	A					
	児:	あなたは、あいさつや丁寧な言葉遣いが身に付いていますか。	88.1	87.4	B					
	職:	児童は、挨拶やあたたかい言葉遣いなどが身に付いている。	76.9	71.4	B					
	保:	お子さんがきまりやマナーなどを守らなかった時は、お子さんが納得するまで話し合っている。	98.1	93.6	A					
	児:	あなたは、学校のきまりを守るなどが身に付いていますか。	91.2	86.2	A					
	職:	保護者は児童が、学校のきまりや社会のルール、マナーなどを守らなかったときは、お子さんが納得するまで話し合っている。	100	100	A					
学校関係者による 意見等	社会福祉協議会や地域の敬老会との交流について、子どもたちから「とても楽しかった」「またやりたい」との意見、また、参加した大人からも「やりがいを感じた」等の意見が多くあったので、次年度も豊かな心の育成に向けて、地域との交流活動を継続して展開していけたらよいのではないかな。									
安全管理	保:	学校は、学校での怪我やトラブルがあった時、速やかに対応・連絡・指導をしている。	94.2	93.5	A	今年度も安全安心な学校づくりについては、本校の重点的取組として、施設環境整備や避難訓練、通学路の点検に力を入れてきました。保護者・児童ともに90%以上の肯定的評価をいただきました。特筆すべきは、海外の台湾台北市から、防災教育視察団が訪れたことです。授業公開ではゲストティーチャーを招き、防災教室を行い、視察団にはとても好評でした。また、登下校中に児童が不審者に遭遇した場合の対応訓練を実施しました。遊具についても、補修不可能な遊具は撤去が進んでおり、ブランコが新しくなったことで、休み時間や放課後には児童の使用頻度が多いです。引き続き、毎月実施している安全点検を念に行い、児童が安心して学校生活が送れるように努めていきます。怪我の対応については、迅速に保護者に伝えるように心がけてきました。児童の肯定的評価が昨年度から大幅に上回っております。	A	A		
	児:	先生は、けがやトラブルがあったとき、すぐに対応してくれますか。	97.5	88	A					
	職:	学校は、学校での怪我やトラブルがあった時、速やかに対応・連絡・指導をしている	100	100	A					
	保:	学校は、安全安心な学校を目指し、施設環境に留意し、防災教育に力を入れている。	92.2	94.8	A					
	児:	学校は安全で、安心して登校することができていますか。	95.6	95.2	A					
	職:	学校は、安全安心な学校を目指し、施設環境に留意し、防災教育に力を入れている	100	100	A					
学校関係者による 意見等	・安全管理に留意して新型遊具の導入を進めてほしい。									
保護者・地域との 連携	保:	学校は、家庭から連絡したことや相談等について、きちんと話を聞き、アドバイスするなど、速やかに対応している。	95.1	94.8	A	学校運営の情報発信としてtetoru配信は、本校の重要ツールとなっています。また、もうひとつの情報発信ツールであるHP!は、主に行事、児童の学習活動を紹介するニュース&トピックにおいて、常時更新しており、学校便り・学年便りだより、tetoru配信と合わせて担任からの保護者、地域への情報発信はかなりできたと自負しております。その点で、保護者からはほぼ100%になる肯定的評価を頂きました。 また、今年度も実施している学校便りの地区回覧については、各地区の区長様方のご協力のもと、継続することができました。高齢者世帯も増える今日、HPだけでなく回覧板で学校の様々な情報を保護者の皆様や地域の皆様に発信していくことで、学校の様子が伝わり、保護者・地域の方との新たな連携が生まれていければと考えます。そうしたい点では、飯岡地区社会福祉協議会及び老人クラブと交流会を開催した点は新たな地域交流となりました。 地域の人材活用に関しましては、生活科の町探検での企業協賛、読み聞かせや家庭科の調理実習やミシン学習でのボランティア、外部講師のコーディネーとによる合唱練習、教科でのゲストティーチャー、飯岡小フェスティバルでの伝統芸能披露と飯岡幼稚園の発表の場を設定し、幼保連携の機会も持てました。地域の皆様にお世話になり、多様な教育活動を展開することができました。 児童の基本的生活習慣については、引き続き、早寝早起き朝ご飯の習慣化を家庭と連携を図るとともに、学習規律や時間、ルールを守ること、基本的習慣を身に付けさせたいと考えています。	A	A		
	職:	学校は、家庭から連絡したことや相談等について、きちんと話を聞き、アドバイスするなど、速やかに対応している。	100	100	A					
	保:	学校は、保護者、PTA、地域住民と連携・協働して、地域の人材や団体(社会福祉協議会や自治体組織、市内の企業、ボランティア有志団体等)を活用し、児童の学習や教育活動の充実に努めてい	93.2	92.2	A					
	職:	学校は、保護者、PTA、地域住民と連携・協働して、地域の人材や団体(社会福祉協議会や自治体組織、市内の企業、ボランティア有志団体等)を活用し、児童の学習や教育活動の充実に努めてい	100	100	A					
	保:	食事、排便、洗顔、歯磨きの健康に関する習慣や、翌日の準備、整理整頓等の基本的生活習慣が身に付いている。	/	85.9	/					
	保:	学校は、家庭と連携し、お子さんの規則正しい生活習慣(睡眠、食事、翌日の準備など)の定着に向け、適切に取り組んでいる。	89.3	/	B					
	職:	児童は、時間や約束事を守ったりする習慣や、整理整頓等の基本的生活習慣が身に付いている。	/	57.1	/					
	職:	学校は、家庭と連携し、お子さんの規則正しい生活習慣(睡眠、食事、翌日の準備など)の定着に向け、適切に取り組んでいる。	100	/	A					
	保:	学校は、教育方針や教育活動・行事等(授業参観・学校公開日)について、学校(学年、保健)だより、学校ホームページや連絡アプリ「tetoru」でわかりやすく伝えている。	99	90.9	A					
	職:	学校は、教育方針や教育活動・行事等(授業参観・学校公開日)について、学校(学年、保健)だより、学校ホームページや連絡アプリ「tetoru」でわかりやすく伝えている。	100	100	A					
学校関係者による 意見等	・地域との交流、人材活用をさらに推進すると思う。 ・職業人など、老人クラブ以外の方との交流を増やしてはどうか。 ・スポーツ交流を増やしてはどうか。									